

授業科目	小児看護学	講師名	医師・看護師・専任教員		
開講時期	1 年次 前期	単位数	6 単位	時間数	1 9 5 時間

【学習目的】

小児が、健全な人間形成を遂げる為に必要とされる、健康上の問題を援助し、また健康障害にある小児と家族に対して適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

【構成】

小児看護学	6 単位	1 9 5 時間
小児看護学概論	1 単位	1 5 時間
小児の疾病・障害	1 単位	3 0 時間
小児看護学方法論Ⅰ	1 単位	3 0 時間
小児看護学方法論Ⅱ	1 単位	3 0 時間
小児看護学実習	2 単位	9 0 時間

授業科目	小児看護学概論	講師名	兵馬孝周 小野寺ひで子	所属	看護専門学校
開講時期	1 年次後期	単位数	1 単位	時間数	15 時 間
					必修科目

【学習目的】

小児看護の変遷を理解し、小児の健全な成長・発達を促進するための小児看護を学ぶ。
小児の健康問題を総合的に理解するために社会の中の小児を理解する。また、小児を巡る諸問題への対策について考え、小児にとっての環境の重要性を理解する。

【学習目標】

1. 小児看護の変遷を理解する。
2. 小児看護の役割と倫理について理解する。
3. 小児看護の対象としての子どもを理解する。
4. 小児の置かれている環境とその影響について理解する。
5. 小児にとっての家族について考える。
6. 障害のある小児と家族について考える。

【学習内容】

1. 小児看護の変遷
小児看護学の独立や小児専門病院の誕生前とその後の変化について知る。
2. 小児看護の役割と倫理
小児看護の目的・目標について理解する。
小児看護における倫理について理解する。
小児看護の課題について理解する。
3. 小児看護の対象としての子どもを理解する
小児の諸統計や世界の子どもを知る。
4. 社会の変化と子どもの置かれている状況
少子高齢時代・情報化社会・生活環境の劣悪などについて考える。
5. 子どもにとっての家族
伝統的な親子観・子育ての実情・兄弟関係などについて知る。
家族の役割について知る。
6. 障害の捉え方
障害のある小児の動向と看護の必要性を学ぶ。
障害のある小児と家族の特徴を学ぶ。
障害のある小児と家族の社会的支援について学ぶ。

【使用テキスト】

新体系 小児看護学①「小児看護学概論/小児保健」 メジカルフレンド社
新体系 小児看護学②「健康障害をもつ小児の看護」 メジカルフレンド社

【評価方法】

1. レポート課題の点数
2. 学力テスト（筆記試験）
3. 授業の出席点

備考：参考図書

1. 国民衛生の動向 厚生統計協会

授業科目	小児の疾病・障害	講師名	医師		所属	杏林大学病院
開講時期	2年次4月～7月	単位数	1単位	時間数	30時間	必修科目

【学習目的】

1. 小児期の主な疾患・障害を理解し、看護に必要な知識を学ぶ。

【学習目標】

1. 小児期に多い疾患・小児に特有な疾患の病態生理を理解する。
2. 小児の疾患や症状に対する診断・治療について理解を深める。

【学習内容】

1. 小児の感染症
2. 小児の腎臓疾患
3. 小児の呼吸器疾患
4. 小児の血液・腫瘍疾患
5. 小児の循環器・消化器・精神疾患
6. 小児の神経・運動器疾患
7. 小児の栄養・成長発達
8. 出生前・新生児
9. 結合組織病と類似疾患
10. 免疫・アレルギー疾患
11. 代謝・内分泌

【使用テキスト】

ナースの小児科学 中外医学社

【評価方法】

学力テスト（筆記テスト）

備考

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	講師名	小野寺 ひで子 保育園職員		所属	看護専門学校 椎の実子供の家保育園
開講時期	2 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	必修科目

【学習目的】

1. 小児科各期の特徴と健全な成長・発達を理解し、発達に適した生活ができるための方法を理解する。

【学習目標】

1. 小児の成長発達過程と発達課題が理解できる。
2. 小児期における栄養の役割と特徴が理解できる。
3. 小児各期の日常生活と生活指導について理解できる。
4. 身体の測定やバイタルサインの測定方法が理解できる。
5. 小児の遊びの意義と特徴が理解できる。
6. 保育の意義と役割を知りこれからのあり方を考えることができる。

【学習内容】

1. 小児の成長発達過程と発達課題について学ぶ。
定義・発達の一般原則・影響因子
2. 小児期における栄養の役割と特徴について学ぶ。
小児の栄養の意義
小児各期の栄養の特徴
3. 小児の発達段階に応じた世話と健康増進について学ぶ。
しつけの概念
基本的生活習慣としつけの方法（食事・排泄・睡眠・清潔等）
4. 身体計測・バイタルサインの方法について学ぶ。
5. 小児の遊びの意義と特徴について学ぶ。
遊びの概念
遊びの発達
6. 保育の意義と役割について学ぶ。
地域社会での役割
集団保育について

【使用テキスト】

新体系 小児看護学①「小児看護学概論/小児保健」 メジカルフレンド社

【評価方法】

1. 学力テスト（筆記試験）
2. 授業の出席点
3. 課題

備考

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師名	病院看護師 小野寺ひで子		所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	必修科目

【学習目的】

- 健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について学ぶ。
- 発達段階や病期に適した看護が実践できるための知識・技術を学ぶ。

【学習目標】

- 小児看護の特徴を踏まえ疾病・障害が小児と家族に及ぼす影響について考える。
- 発達・病期に適した日常生活の援助について理解する。
- 小児期に多い特徴的な症状と緊急時の看護を学ぶ。
- 終末期を迎える小児や家族の心理について学び、看護のあり方について考える。
- 小児看護に必要な看護技術を理解する。
- 検査・処置を受ける小児の看護を理解する。
- 小児期の事例を看護過程の枠組み（臨地実習使用）に沿って考える。

【学習内容】

- 疾病・障害が小児と家族に及ぼす影響について学ぶ。
影響因子について
小児各期へのプラスの影響・マイナスの影響
- 発達・病期に適した日常生活の援助について学ぶ。
基本的な生活習慣の確立
遊び・学習・友人との交流の支援
社会生活の支援
- 小児期に多い特徴的な症状と緊急時の看護について学ぶ。
主要症状と看護（嘔吐・下痢・脱水・発疹・発熱）
緊急時の看護（外傷・出欠・熱傷・打撲・誤嚥）
- 終末期を迎える小児と家族の心理について学ぶ。
小児各期の死の受け止め方について
死に直面した小児と家族の看護
- 小児看護に必要な技術について学ぶ。
コミュニケーションなど
- 検査・処置を受ける小児の看護を学ぶ。
与薬・輸液管理・褥瘡・腰椎穿刺・骨髄穿刺・など
- 小児期の看護過程について学ぶ。
一事例をとおり全体像の捉え方、アセスメントの仕方等を学ぶ。

【使用テキスト】

新体系 小児看護学②「健康障害をもつ小児の看護」 メジカルフレンド社

【評価方法】

- 学力テスト（筆記試験）
- 課題についての評価

備考

授業科目	小児看護学実習	講師名	実習指導者 専任教員 各施設：指導担当	所属	看護専門学校 杏林大学病院 保育園・児童館
開講時期	2 年次後期～ 3 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間
【小児看護学実習の意義】 小児看護学の目的は、看護の対象である子どもの特徴を理解し、あらゆる健康レベルにおける子どもと養護者・家族に対して、個別的なケアを提供する為に必要な基礎的知識を習得し技術・態度について理解する。 小児看護の特徴はその対象の特徴にある、つまり小児期は発達途上にあり、発達相応のケアや教育が必要となる。 小児看護は次代を担うべくすべての子どもが対象となり、社会的に広い視野で子どものおかれて いる立場を理解する必要がある。小児看護実習は、この目的を達成する為の一形態である。 【小児看護学実習の目標】 発達の途上にある小児の特徴について、小児との関わりを通じて理解を深め、小児の最善の利益に かなう看護について考える為の視点と実践の基本を学ぶ。 【学習方法】 1. 保育園実習（2. 5 日間） 2. 児童館実習（2 日間） 3. 小児病棟実習（5 日間） 4. 学内学習・課題学習 5. オリエンテーション 【評価方法】 1. 「評価規定」に基づいて行う 2. 規定時間の 4 / 5 以上の出席をもって評価の対象となる。 3. 小児看護学実習評価基準に基づいて評価する。					
備考 「小児看護学実習」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。 基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ					